

令和8年度第1回笛吹市スポーツ推進審議会議事録

日時 令和8年6月3日(水)

午後7:00から

場所 市民窓口館1階102会議室

出席委員 川崎委員、深山委員、高野委員、大森委員、河野委員、廣瀬委員、渡辺委員

事務局 手塚教育部長、早河生涯学習課長、土橋課長補佐

1 開会のことば

(深山副会長)

ただいまより、第1回笛吹市スポーツ推進審議会をはじめます。

ご審議のほど、お願いいたします。

2 会長あいさつ

(川崎会長)

皆さんこんばんは。

本日も皆様のご協力で、短時間で成果のある会議にしたいと思いますので、よろしくをお願いしたいと思います。

(土橋補佐)

会議の成立、条例第7条第1項の規定に、審議会は、委員の総数の過半数が出席しなければ、議事を開き、議決することができないと定めています。

本日、委員数10人に対し、参加者数は7人であり、よって本会議が成立していることをここに宣言します。

なお、本会議は笛吹市附属機関等の会議の公開に関する要綱第3条により公開して開催いたします。また、本日の会議の内容については笛吹市附属機関等の会議の公開に関する要綱第10条により所管部署において、6ヶ月間の閲覧および市ホームページへの掲載をします。

委員の皆様には、会議録を作成した時点で送付しますので、内容の確認をお願いいたします。その後閲覧および掲載をします。

なお、会議録の作成に関わる業務の効率化のため市ではAIを活用しておりますので、意見等いう場合には、マイクの活用をよろしくお願いいたします。

それでは会長よろしくお願いいたします。

3 議事

(川崎会長)

それでは早速でございますけれども議長の方をやらせていただきます。よろしくお願いいたします。

まず1番目のスポーツツーリズムについての検証です。

それでは事務局にて説明をお願いします。

(早河課長)

まず初めに昨年度スポーツ振興計画を策定いたしまして、委員の皆様にはご意見をいただきまして、立派な計画書が作成できましたので、本当にありがとうございました。

なお、今年度人事異動によって、2人の事務局が変わりましたので、先ほどご紹介があった土橋課長補佐が、稲葉課長補佐との交代、そして、岩澤さんが退社となり、その代わりに金子主査が、生涯学習課の方へ配属となっております。金子さんについてはヴァンフォーレの谷さん主催の谷ラダーに出席しており、山下は別の公務に出席しております。

それでは、説明の方に入りたいと思います。よろしくお願いします。まずはじめに、未来の地域人材育成、経済活性化事業の実績報告についてです。これはスポーツツーリズム事業となります。まず事業の概要ですが、武道館、石和の清流館を、スマート防災、交流拠点化整備事業ということで、大々的に改修を行います。

内容的には、市の中心部にある武道館を、平時は文化、スポーツ、教育の拠点、災害時は福祉避難所として、次の機能を整備、強化します。これによって、「集う、守る、支える」を統合した、レジリエントな地域拠点への転換を図るというような整備になります。特に、武道館の運営体制については、現在、施設を運営する財団法人（公益財団法人 ふえふき文化・スポーツ振興財団）が中心になり、アスリートや地域の観光事業者との連携による、官民共同運営体制を構築し、人的資源の持続的な確保と、公共施設運営の効率化を図ることになっております。

改修内容については、空調設備、今度、清流館の武道場と剣道場に空調を入れます。また、専門性のある床への改修、柔道の畳、剣道場等を改修して、専門性の高い床への改修になります。また、トレーニング機器の更新やレスリング、マットの導入、そして防火機能の強化、LED化、そして自家発電機による非常時電力の確保、WiFiや衛星通信の整備、バリアフリー化、トイレの乾式化などの改修内容としています。

昨日入札がありまして、仮契約後議会の議決を得て本契約となります。

拠点整備事業については、国の交付金が半分入ります。それによって、ソフト事業も附属しながら、清流館の交流人口を増やしていきます。これが未来の地域人材と経済活

性化事業として行われます。

この事業については、拠点整備によって、リノベーションされた武道館を中核として、地域外人材資源の呼び込みと、地域経済の循環化を常時実現するということで、運営に関しては、施設の指定管理者が中心となって、地元の観光業者と連携する中で、トップアスリートや地域の知見やノウハウを最大限に活用するという形になります。

事業については、3年間交付金がつきます。その後も何年か継続していかなければならないんですが、2年目以降は、前年度の成果を踏まえてさらなる発展を目指すために、多種多様な団体から選出された委員で構成されている、このスポーツ推進審議会で、この事業を検証し、事業の発展を目指していきます。

今回、令和7年度の実績が出てきましたので、その実績を報告し、検証していただき、今年、来年以降に結びつけていくということで、今回はいろいろな意見をいただきたいと思います。

次に、②として、令和7年度の事業内容についてです。1名の人材を雇用して、財団職員と交流し、清流館を拠点とした次の事業を展開するということで、柔道に関するアスリートの方を1人採用しております。1カ月間、フルタイムではないんですけれども、その方を中心に、出前講座等の実施を5回以上、そして、これを企画から実施までのコーディネートしていただく。また、武道系アスリートの講演会を企画していますので、その実技講習会の企画準備を令和7年度はしていただいています。また、事務として備品の購入や車両のリース、その他、本事業に関わる業務で、未来の地域人材育成、地域経済活性化業務報告書が実績報告として上がっててきました。

令和7年度に実施した事業ですが、ふえふき財団と業務委託をして、令和8年1月6日から令和8年3月31日まで、業務を実施していただきました。業務内容については、出前講座等の実施、企画から実施までのコーディネートをしていただいた次第です。講師は、木内さんという大学の非常勤講師で、山梨大学の柔道部の監督です。特にここに書いてある通り、さまざまな資格の方を有している方で、全日本柔道連盟の公認柔道指導者のB級指導員、また令和8年の日本オリンピック委員会の強化スタッフとしても認定されている方で、この方が、講座練習会を開催し、段階的な技の習得、初心者でも、基礎技術や怪我の防止に配慮した安全指導、事故、リスクを下げつつ、運動量を確保でき、学習成果の安定が期待できる講習を実施しているような状況です。

今回の実績については、出前講座を5回していただきました。こちらについては、柔道を中心に、次のページに写真等が出ておりますけれども、中学校での講座、部活の指導等々をしていただいています。

河野先生もいらっしゃいますけれども、浅川中の生徒も指導してもらいました。

また、3月28日に柔道練習会にて、市内外のスポーツ少年団の方々をお招きして、石和の清流館において午前中が小学生、そして午後は小学5年生から中学生で、午前中が66人、午後に57人、児童生徒が参加していただいて、柔道練習会、経験会をしていただ

きました。その写真が一番最後のページに出ております。その他、備品の購入、リース契約、移動車両のリース契約等をしていただいて、令和7年度実績としてありました。経費については、人件費、出前口座等の費用、車両のリースや備品購入等々で、150万円の支出がありました。今回、この事業を国の交付金として申請しています。

③として、この事業が重要業績評価の指標、KPI というものも求められております。下表がありますが、これをクリアしながら、KPI 指標をクリアしていきます。皆様方の意見を聞きながら、今後の KPI の方も達成していききたいと思います。

KPI の指標の説明をさせていただくと、まず KPI の1として交流人口の増加ということで、年間に200人以上の交流人口の増加。事業開始前の時点で、2万9800人が清流館を利用している状況です。それから、25、26年度は改修工事で利用できていないという状況ですので、27年度に工事が完成し新しくなった清流館を活用して、2027年度におおむね300人、28年度はさらに300人。29年度には増加分として、さらに300人ということで、5年後には1520人以上交流人口を増やしていく目標を掲げています。これをクリアしていくために、KPI の2の武道出前授業の実施回数。そして、これに伴う出前授業の参加児童生徒数の人数、スポーツ合宿を木内先生に構築していただいて、あるいは誘致していただいて、清流館を活用しながら、さらに参加交流人口を増やしていきます。それぞれの KPI、目標値が設定されていますので、これらをクリアしていかないと、国から指導があります。ですので、皆様方の貴重な意見をいただきたいと思います。

以上が説明となります。この KPI を今後、着実にクリアしていくために、皆様方のご意見の方をいただきたいということで、提案させていただきました。以上です。

(川崎会長)

それでは、初めて聞くお話になろうかと思いますが、先ほど浅川中もということですので、河野校長先生の方から実施した感想とかを聞かせてください。

(河野委員)

浅川中の河野ですが、今、浅川中と石和中の生徒がいつも合同練習をやっています。今日、本校も金曜日の市の総体に向けて壮行会が行われたんですが、見たらずいぶん増えていると感じました。風前の灯みたいな感じだったんですけど、1年生が5、6人ぐらい入りました。専門家に練習を見ていただいている状況です。

実は今日、笛吹高校の廣瀬校長先生を前にして言うのもなんなんですけど、今日実は本校に日川高校の校長先生が学校訪問に行きまして、日川柔道部が0なんですって。もう柔道人口が減っちゃって中学校でもぜひ本校に来てくださいなんていうそんな声を聞いたところなんです。どうすれば柔道人口増えていくのかな？なんていうところも今後のことでちょっと心配な感じなんです。というのも本校は東山の方じゃなくて、甲府工業の方に、柔道の子が皆、石和柔道会の繋がりで、行っているということもわかっ

ています。今後どうしてどうやって日川高校の方になんていう話もしたんですけどもいずれにしても、校長の立場だと、スポーツツーリズムって言いますとやっぱりお金と人とそして、満足度とそして教育にどのくらいのメリットがあるのかっていう、その4点を、その成果をですね図っていくというのがすごい大事なかなということと、次に繋がっていく継続性っていうようなものが、どこら辺に見られるのかななんていうことも踏まえて今後ちょっと精査していかなきゃいけないなんてことは個人的にはちょっと思っています。すみません答えになったかどうかわかりませんが。

(川崎会長)

急にちょっと浅川中の河野先生に振ってしまいましたけれども、いずれにせよ柔道を特化してやってる。ていうことになるのかな。

(早河課長)

柔道に特化してるわけじゃないんですけど、清流館が武道場なので、武道ツーリズムっていう関係で、柔道に特化するわけではなく、誰か他に弓道教室なんかをしていただけるという先生がいるのであれば、木内先生が企画してその人に来ていただく、弓道教室をやっていただいて、そこを活用していくっていうところなので、弓道にしても剣道にしても、武道系を中心として、あそこを活用していただきたい。あるいは別にサッカーでも問題はないと思います。清流館の中で、例えば裸足でちょっとトレーニングしたりとか。そういったことをしながら、まずはあそこの交流人口を増やすということが大事になります。

(川崎会長)

例として柔道というようなことでいいのかな。

もう1つは、私の思いがあってるかどうかわからないけれども、参考にとということで、新聞紙上にあったことで、日川クラブを日川高校で立ち上げてやったんですが、5月19日、17日頃かな、日川クラブということで、いろんな種目で、とりあえずは学校に指定クラブ、そのクラブだけでやったんだけど、その後に吹奏楽という文化部もやったということです。

それから、指導者というかな、子供たちと一緒に遊ぶ、スポーツを楽しむ、あるいは体を動かすということで、子供たちにも、いわゆる教える側の立場を味わってもらいたい、あるいは「教える」ってこういうことだよっていうようなことも経験してもらいたいんだというようなことをしました。保護者も含めると全部で300人ぐらいグラウンドに集まった。ここで、ツーリズムということになると、例えば柔道、あるいは清流館だと弓道とかは、かなり人口多いんじゃないかと思うんだけど。

そのようなものに対し、どんな投げかけをしてどういうふうにやっていくかっていう、ま

ずは指導者の問題ですか。いろんな種目も考えられます。いわゆるあの中のできるものであればいいわけだね？例えばトランポリンでもいいってことだね？器具があれば。

（早河課長）

そうですね。器具があれば。あと高さがどうですかね。

（渡辺修委員）

すみません、わいわいスポーツクラブの渡辺です。

先生がおっしゃった通りですけど、トランポリンが子供たちに人気がありまして、5月6日もヴァンフォーレのホーム試合の前にイベントで呼んでいただいて、グラウンドでちょっとそのときやったんですけど、とにかく大人も楽しんで、飛んでくれるので、人を集めるのに一番使い勝手いいのかなと思います。

普段は、境川体育館で、教育委員会の方からお借りしまして、私使っているんですけど。月に一回、アリーナで子どもたちとかに遊ばせたりしてるんですけど。それを今でもそうんですけど、何かイベントがあるたびに出張に行っている人間がいますので、トラックで運んで、そこで開催することが可能です。例えば教育委員会の方からPR、チラシを配ってもらえれば、多分かなり集まると思います。それをきっかけに、一番僕たちが言うのは、体幹を鍛えるのに一番いいのはトランポリンだということで、ちっちゃい頃からやってもらって、スポ少に入る年齢になるとどんどんみんな来なくなっちゃうんですけど、それも一つだなと思って、小さい子でも何でもいいから来てくれればいいと思いますし、大人も障害者も来て、飛んだりかしてますんで、ただ飛ぶだけで楽しんで、そのことに期待しててくれれば協力できることはたくさんあると思いますので、ご検討いただければと思います。

（早河課長）

はい、ありがとうございます。

（川崎会長）

その他どうですか。

何でも結構ですからちょっと聞いてもらって、例えばここにトップアスリートの知見やノウハウを最大限に活用するっていうような言い方もあるから、そこで制限されちゃうのかなというふうに思ったりもするんだけど。そういう問題じゃないですね。

（早河課長）

大丈夫です。交流人口増えることが一番の目的ですので、清流館を活用してやっていくような形であれば問題はないですね。

(渡辺委員)

追加で、今年の私どものクラブの方針として、今までトランポリンだったんですけど、今話題に出てるモルックと、ボッチャは今年度やるんですけど、それプラス今検討してるのはピックルボールっていう。

この前なんか、日本人で初めて世界チャンピオンだったらしいですけど、そういう競技があるんですけど、それもちっと今年、手を挙げていこうかなということでやってますんで、それも含めて回していけば、結構回数出来ると思っています。

(川崎会長)

どうですか？高野さん何かありますか？

(高野委員)

まずちょっと私がちょっと質問しようと思ったのは、なぜ柔道に特化したのかということだったんですけど、よく読むと、武道館の改築に伴い出来るスポーツは何かなということで柔道、剣道、弓道などの武道の中で柔道の選択を市の方でされたのかなということで理解できましたのでそれはそれでクリアできたんですけど。非常に事業的には大変な事業なのかなっていうふうに個人的には感じてますけども、こうやって国の方からいろいろ催促されたような、何年度には何人なんていうんですかね、最低人員を数字で示されて、これに届かないと交付金いただけないとかそういうことはないんですか。

(早河課長)

はい、あくまでもここが目標です。

こういうところはやっぱり国の方もチェックしていくと思いますので、しっかり事業展開してクリアしていかなきゃなというふうには思ってます。

木内先生に来ていただくのに、山梨学院包括連携してる山梨学院大学の方といろいろ話をしてたんですけども、なかなか見つからない状況でした。

その中で山梨学院大学から紹介されたのが木内先生でした。

(川崎会長)

あと、例えば柔道で話しますけども、出前講座とか、そういったものを当然年度ごとに、指標をみると増やしていくことが一つ、実績をまとめていかなきゃならないということだと思いますけれども、そういう中で、例えばこの武道の柔道を7年度やって、今度8年度も柔道をやるということ？その辺をちょっと教えて欲しい。柔道7年、8年続けるの？7年度で終わって、次はプラスアルファ何か種目を考えているか。

(早河課長)

今年については、先生が柔道の専門なので柔道は引き続きやっていただきます。例えば剣道とか相撲とかで、実績のあるような先生方を木内先生にコーディネートしていただいて講座を開いてもらう。出前授業をしてもらうっていうことも OK です。講師の方を紹介していただければ、木内先生の方でコーディネートしていただいて計画して企画していただくということは全然可能です。いずれにしても講座の回数とかを増やしていきたいと考えております。

また清流館が新しくなりますので、今年度についてはできることなら武道系のアスリートの実技講習とか、講演会なんかもできたらなと思ってます。

(深山副会長)

専門的な出前講座だったり、柔道の練習会だったり、やっていただいているなかで、専門的な指導者の方だけでなく、例えば柔道ってどんなものだろう？っていうようなところから、子供たちが入れるような、何か講座とかがあれば、それをきっかけに裾野が広がったりとか、そういうこともあるかなって思いました。柔道というものを知らない子も多かったり触れることがなかったり、というところで、そういうことが可能かどうか。

さっき渡辺さんがおっしゃってたんですけどその 5 月のときに私もヴァンフォーレに行きながら、たまたまトランポリンを子供たちがやっているのを見せてもらって、もうすごい楽しそうにやってました。そのときにトランポリンだけでなくサッカーがあったり、バレーがあったり、簡単に遊べるような軽スポーツ的なものがあったりで、どこに行っても子供たちが楽しそうにやってて、専門とはちょっとずれてしまうんですけど、そういうスポーツだっ तरीに関わる一歩になるような何かがあれば。

多分中心は武道になると思うんですけど、そういうのが何か企画できて、実際に講座としてできればいいなと思うんですけどそういうのはいかがなものでしょうか？

(早河課長)

はい。そういった意見を参考にして木内先生とも相談しながら実施に向けてやっていきたいなと思います。

(川崎会長)

せっかくだから、廣瀬先生？

(廣瀬委員)

中学校では武道が必修に成ってますよね。なのでそういうところの生徒さんとかをちょっと呼んでくるとかなんてどうかなとか。あとプロではないですけども弓道とかは本校でも部活があって、剣道とか柔道はなかなか今人が集まらなくて部活動がなくなりつ

つあるんですけれども、そんなこととか、あとボッチャなんかは今、児童館で子供たちを集めてしょっちゅうボッチャ大会をしているので、もし道具をお借りするときってどのくらい料金がかかるんですか。

（廣瀬委員）

なんかそういうところが割安でお借りできればそういうところでやれば人は集まるけど、でもそういうところは、費用もかかるから児童センターとかで今やってるんですけど、と思いました。

（川崎会長）

また調べてください。それと国の交付金ということだから、当然実績を作っていかなきゃならない。

そして、特に①のいわゆる交流人口の増加っていうようなところがね、大きなところだと思うまず、こういったものを増やしていくっていうね。

そういった方策をやっぱりきちとやってかなきゃならんと思うんだけどもそういったところ辺が一番これからね、問題になってくるんじゃないかと思います。

その他、出前授業なんかも浅川中あるいはそういったところでやっていただけるといいうようなところもあると思うんだよね、浅川中に限らず、もしやってるところであればできるんじゃないか。評価基準に達するように、やっていくことが大事になってくるかなと思いますので、今後また検討していったらどうかなと思います。

（大森委員）

スポーツ推進委員の大森です。やっぱり武道を中心となると子供たちがなかなか中に入っていくっていうか、体験をするっていう機会がないので、ちょっと難しいのかなっていう。まず私、子育てをしていて、浅川中学に子供が行ってたんですけど、一番最初に中学１年生で柔道着を買わなきゃならない。そこから始まって、「柔道するの」っていうから、授業でね、しなきゃならない、必修だったのやらなきゃいけない。そこで、「えっ？」親としても入っていくところがまずそこからで。でも、なかなか出来ない体験だから、ちゃんと頑張ってるってやってきてねって、っていう形で家の中で家族で話をしたっていうのを今思い出しました。

そんなようにやっぱり取っ掛かりがなかなか武道、剣道もそうですけど武道に対しては、昔は意外と身近にあったものだったんですけど、今はちょっと遠のいてしまって、気楽なサッカーとか野球とかバレーもなかなか人数少ないんですけどそういうあれだったの、せっかく清流館使えていい施設があるのに、取っ掛かりの一步ができるような環境をやってあげられるのがいいのかなんていうふうに私はちょっと思いました。

(川崎会長)

自分がやってるスポーツで柔道、剣道の用具が既にあったりするんだけど、ない人たちってというのは、用具を揃えたりとか、そういった問題をどういうふうにしていったらいいかっていうことを考えると。それから安全の部分で保険の問題とかいろいろあると思うんですね。

そういうことも含めて出してもらえればいいと思うんですが、やっぱり一番人を集める、あるいは人を揃えて増やしていくということ。また清流館までの交通機関とか、そういったのをどうするかとか、いろいろ出てくると思うんだよね。そういった部分での安全安心もあるんだよね。だからそんなようなことも含めて、ぜひ細部にわたって検討していただければありがたいと思います。よろしくお願いします。

以上でよろしいですか。ありがとうございました。

(土橋課長補佐)

続いて4番の「その他」の方に移ります。

本日は政策課より「既存社会体育施設等を専門性の高い施設施設とするための基本的な考え方について」のご説明がございますのでよろしくお願いいたします。

(政策課)

「既存社会体育施設等を専門性の高い施設施設とするための基本的な考え方について」の説明と委員さんとの質疑。

(土橋課長補佐)

続きまして次第ですと閉会ってなってるんですが、今ちょうど地域展開の話がちょっといろいろ盛り上がってましたので、ここで早河課長の方からご説明させていただきたいと思いますのでもう少しお時間いただきたいと思います。よろしくお願いします。

(早河課長)

簡単にご説明させていただきます。令和7年度、8年度いよいよ笛吹市でも地域クラブとしてサッカー競技の方を立ち上げて、休日における部分のみ地域クラブとして今事業展開しております。

笛吹JHSというチームで、ウエスト・イーストの二つになりますけども、イーストについては今のところ御坂中と一宮中、ウエストについては石和中と春日居中が合同になって、それぞれ教育内大会、市の選手権、総体、新人戦に出ていく。選手権についてはもう既に大会が始まってまして、この前イーストがベスト8、ウエストについては負けてしまいました。

現在、地域展開の方が進められております。浅川中については、単独でしていますが、

今後は状況によっては、このチームの方に入っていくのかなと思います。

今年度は試行的にやっておりますので、地域展開推進協議会という組織もありますので、そちらの方で今後、いろいろな課題を検証していきます。

令和 12 年度までに休日における部活動全てを地域展開しなさいというような県のロードマップが出てますので、それに向けて今実施しているような状況です。

地域展開については以上です。

(土橋課長補佐)

ありがとうございました。何かご質問がありますか。

(委員一同)

なし。

(土橋課長補佐)

お疲れ様でした。続きまして閉会の言葉を、深山副会長をお願いいたします。

(深山副会長)

長時間にわたりご審議ありがとうございました。皆様のご協力のおかげで、予定の 9 時より早く終わることができました。今後ともまた、こちらの審議会の方のご協力をお願いしたいと思います。

以上をもちまして、令和 8 年度第 1 回笛吹スポーツ推進審議会を閉会といたします。お疲れ様でした。ありがとうございました。

(土橋課長補佐)

最後に、互礼を交わして終了したいと思います。皆さんご起立願います。相互に礼。お疲れ様でした。ありがとうございました。

終了 20 時 27 分